

この60年余りで平均寿命が約30年伸び、「人生85年時代」が到来するとともに、人々の価値観が多様化する中で、従来典型的だった「20歳前後までは学校に通い、定年までひたすら働き、その後は年金生活で余生を過ごす。」といった年齢で輪切りにする人生設計は、誰もが自分らしく幸せな人生を全うするという理想をかなえる上で時宜に合わないものとなりつつある。

このため、国民一人ひとりが健康で充実した暮らしを送れるよう、人生設計をデザインし直し（リ・デザイン）、仕事・生活・学び・遊び等について生涯現役の社会づくりを進め、自分らしい「花のある生き方」を実現するため、以下提言する。

1. 子どもの頃から、文化を学び、他者に支えられていることを学びながら「自分づくり」に励む。

- 音楽・詩歌・絵画・ものづくり・生活文化などの広い意味での芸術・文化を楽しむ学ぶ機会づくり
- ふれあい授業、課外活動、インターンシップ等を通じた体験的な学びの推進
- 学校、地域、企業において、老いや病や死に直面している人々のケアに参加するなど、「死と向き合い、より良く生きるカリキュラム」の普及

2. 若い頃から、何度でも学び、性別や年齢にかかわらず働き、世代を超えて交流する。

- 一生の間に何度でも学び直すことができる環境整備
- 性別や年齢で区切ることのない採用から退職までの雇用システムづくり
- 正社員を希望するフリーター等に対する強力な支援を通じた雇用や生活の安定
- 文化芸術活動やスポーツなど共通の関心で結ばれた人々の世代を超えた交流

3. 仕事と生活のバランスのとれた働き方を実現し、特に女性も力を存分に発揮できるようにする。

- 育児・介護・学び等と、職業キャリアの積み重ねとを両立しやすい柔軟な働き方の実現に向けた環境整備
- 長時間労働の抑制に向けた労使の取組の促進
- 職業キャリアの節目における心身の充実や職業能力の磨き直しに向けた長期休暇制度の普及
- 年中無休の24時間営業など働き方に影響するサービスの在り方の見直しに向けた議論や取組

4. 生きる知恵や経験を活かし、人のため、「世間」のために役立つ生き方を探る。

- 地域における芸術・文化・スポーツなど交流機会の拡大や、そうした機会を広げるまちづくり
- 老いや介護の問題にも配慮した多様な住まいづくり
- 子育て・教育・環境等の分野における地域貢献活動への様々な世代の住民参加、住民・企業・地方自治体及び国等様々な関係者の協働の促進